第 12 章

# 研究資源アーカイブ作成の可能性

市村　櫻子

## 1　はじめに

本稿では、女性情報ポータル Winet（ウィネット）でも広報している「女性学／ジェンダー研究博士論文データベース」（以下、WS/GS 博士論文 DB という）をモデルとして、国立女性教育会館（以下、NWEC という）情報課の新しい事業展開の方向性、可能性について述べる。

その内容は、WS/GS 博士論文 DB の利用広報とともに、大学研究者や企業等との共同作業を含めた、このデータベースのデータ更新作業への支援方法を検討すること。加えて、将来このデータベース更新作業等によって発生する成果物を、整理・保存することによる研究資源アーカイブ構築の可能性や、女性学、ジェンダー研究の主題別学術機関リポジトリ構築の可能性についても考えてみたい。

## 2　ナショナルセンターという役割

研究資源アーカイブとは、研究の過程において収集・作成された様々な資料類を体系的に収集・保存し、新たな教育研究の資源（研究資源）として運用することを目的として作るものとされている。また、学術機関リポジトリ

とは、大学や研究所等学術機関による様々な研究成果物を電子化して公開するシステムとして、インターネット上で、学術論文、学術雑誌の掲載記事等を無料で利用できるサービスのことである。現在、NWEC の事業資料やジャーナル、実践研究など NWEC 事業の成果物を発信している埼玉県地域共同リポジトリ SUCRA（さくら）もそのひとつである。

そのため、研究資源アーカイブや学術機関リポジトリは、教員・研究者がそれぞれ所属する大学において取り組めるものではあるが、女性学、ジェンダー研究という分野においては、NWEC が関わることで、この分野の専門情報を全体的に捉え、提供する仕組みが考えられないだろうか。NWEC のナショナルセンターという役割の 1 つとして、大学教育・研究の分野へ、専門情報としての研究資料情報を包括的に保存・提供する支援の「場（機能）」となる可能性について、考えていきたい。とはいえ、そのナショナルセンターの役割を担う NWEC 情報課のスタッフは課長を含め常勤 5 名という小さな組織であるため、このような新しい試みは、NWEC 単独の努力ではなく、大学等の研究者はもとより、関連機関、アプリケーションソフト開発のできる企業とも連携して事業をすすめられなければ、実現の可能性は薄い。

その可能性を含め、小さな組織でも大学・企業等、外部の協力を得て、実現できる事業の方法について WS/GS 博士論文 DB の支援をベースとした、今後の NWEC 情報課の研究支援事業のひとつの方向性を提案してみたい。

このような方向性が、NWEC が持つ女性情報への専門ポータル（入口）の活用につながり、NWEC が全国の女性情報ネットワークのハブ（中心）として、その役割・機能を、今後も拡大・強化していくことを期待したいと思う。

なお、『NWEC 実践研究』第 3 号に寄稿した「地域での課題解決型学習を支援する情報事業の『見える化』」の中に記述した「『女性学 / ジェンター研究博士論文データベース』データ更新の支援」について、その方法案を記録することを兼ねている。WS/GS 博士論文 DB の詳細については、本号第 11 章の内藤氏の記事に詳しい。

## 3 「情報の見える化」事業

NWEC 情報課は、これまでも NWEC 事業の特色（強み）を「情報の見える化」として、様々な事業の中で取り組んできた。

①女性情報ポータル Winet（ウィネット）のデザイン更新（http://winet.nwec.jp/）

②図書パッケージ貸出の拡大（http://www.nwec.jp/jp/center/page12.html）

③埼玉県地域共同リポジトリ SUCRA（さくら）による NWEC の研究成果の公開・発信（http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/）

④新規事業として NWEC 災害復興支援女性アーカイブの構築（http://w-archive.nwec.jp/il4/meta_pub/G0000002wd）

⑤女性デジタルアーカイブシステムの更新（http://w-archive.nwec.jp/il4/meta_pub/G0000002warchive）

上記①～③により、NWEC の持つカレントな専門情報の発信・提供、男女共同参画についての新しい知識と情報の支援、NWEC の研究成果の公開・発信をすすめる一方、女性関連施設との連携を活かした④により、女性関連施設が実践する現在のアクティビティを情報としてデジタル化して世界へ発信し、加えてアーカイブとして保存している。

この④のシステムは、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」との連携機能も持つことからも、広く世界への発信と「ひなぎく」等を経由した世界からのアクセスが期待できる。また、⑤では、先駆者たちの実践の記録の提供と保存を、継続して着実に実施している。

## 4　利用ターゲットの拡大とサービスの強化

近年 NWEC はその研修事業において、そのターゲットを女性関連施設のリーダーだけでなく、大学や企業のリーダーや経営者へと広げ、その連携を強化している。

それにあわせ情報事業は、研修事業受講者の学習支援のための情報提供として、図書の個人貸出サービスのみならず、大学、企業等の機関への図書パッケージ貸出により、社会に広く男女共同参画に関する知識と情報を提供している。

前項にあげた NWEC 情報課の情報サービスに加え、さらに専門図書館として大学向けのサービスを広げる 1 つの方法として、平成 24 年 8 月、Winet から WS/GS 博士論文 DB にリンクをはり、アクセス窓口のひとつとなった（図 1）。

図 1

女性学 / ジェンダー研究
博士論文データベース

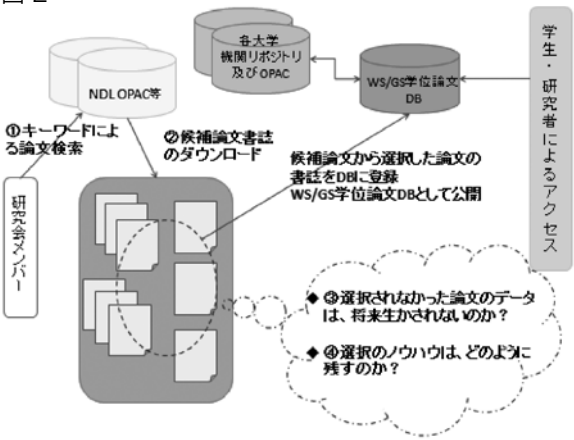
NWEC が提供する「女性学・ジェンダー論関連科目データベース」（http://winet.nwec.jp/jyosei/search/）によると、全国の大学・短期大学等の高等教育機関における女性学・ジェンダー論関連の開講科目は、2000 年に 340 大学、1,706 科目だったものが、2008 年には 455 大学、3,778 科目まで増えている。

Winet からリンクがはられている WS/GS 博士論文 DB は、全国で女性学・ジェンダー研究を学ぶ学生、研究者に向け、特にこれから論文を書く学生へ有効な学習支援ツールとなることが期待される。

## 5　WS/GS 博士論文 DB 支援構想のきっかけ

平成 24 年に、このデータベース作成者である内藤氏、データベース作成研究会のメンバーであり NWEC 情報課客員研究員である青木氏から、このデータベースの公開の方法、広報の方法について相談があった。その時に作成の経緯を伺って、論文収集にあたっての手作業の多さ、特に論文タイトル等に現れないキーワードからの論文収集作業、集めた論文からデータベース登録する論文選択作業の工程、その後の登録等の作業の未確定な状況に驚いた（図２）。

図２




特に、国立情報学研究所や各大学が作成する学位論文データベースや学術機関リポジトリがある中で、さらに女性学・ジェンダー研究に特化した専門分野の学位論文データベースを作った理由に、NDL-OPAC[(1)]や JAIRO[(2)]、CiNii[(3)]などのデータベースから、女性学、ジェンダー研究に関する博士論文をキーワード検索することの難しさ、それぞれの論文における課題認識の違いなどがあるという。この点について、論文タイトル中に使われない字句や、論文検索の際のキーワード選定について、大変興味深い示唆をいただいた。

詳細は、本号の内藤氏による第 11 章に詳しい。

以下に前号の記事から関係する部分を引用する。

　この WS/GS 博士論文 DB 構築にあたっては、いくつかの大学の博士論文を「国立情報学研究所博士学位論文書誌データベース」及び「国立国会図書館 NDL OPAC（一般書誌検索）博士論文」から検索して抽出し、数人の研究者たちによる協議のうえ、データベースに登録する論文の採否を判断する。今後もこの作業が続くことから、今後は研究会のメンバーに NWEC の持つ支援ツールを提供するとともに、外部業者との連携も合わせて、このデータベースの利用拡大を支援する。まず、広報の窓口の 1 つとして、Winet へ掲載する。次に女性学・ジェンダー研究の研究機関を持つ大学の大学図書館とのリテラシー教材の共同開発を検討する。そのほかに、作業段階で発生する様々な研究やコメントを保存することができるツールを提供し、将来の形として、「女性学・ジェンダー研究博士論文 DB 研究資源アーカイブ」を構築できる可能性を提供したい。

前号に掲載した記事の内容を、作業別に展開すると次のようになる。

⑴今後もこの作業が続くことから、今後は研究会のメンバーに NWEC の持つ支援ツールを提供する

⑵外部業者との連携も合わせて、このデータベースの利用拡大を支援する

⑶広報の窓口の 1 つとして、Winet へ掲載する

⑷女性学・ジェンダー研究の研究機関を持つ大学の大学図書館とリテラシー教材の共同開発を検討する

⑸作業段階で発生する様々な研究やコメントを保存することができるツールを提供する

⑹将来の形として、「女性学・ジェンダー研究博士論文 DB 研究資源アーカイブ」を構築できる可能性を提供する

この中で⑶はすでに実現済み。⑴は、この WS/GS 博士論文 DB のデータ

更新の方法はできているので、それを効率化することとともに、データ更新作業のノウハウを残すことも目標に考えた。将来、この WS/GS 博士論文 DB でなくても、主題別に探せるツールができれば、この WS/GS 博士論文 DB もデータ更新作業も不要となるだろうが、論文名に専門のキーワードが使われない場合もあるような分野の博士論文 DB は、その存在価値が高く、今後も継続が期待される可能性が高い。

⑵⑸については、次項で述べる。⑷は、このデータベースのアクセスログから、利用頻度の高い大学を抽出するか、または授業で論文執筆のリテラシー教育をしている大学図書館と調整し、その大学図書館職員との共同で授業や論文作成に役立つリテラシー教材の共同開発ができるのではないか、と期待している。⑹は、これらの支援事業を実施するなかから、将来そういうものができるかもしれない、という可能性である。

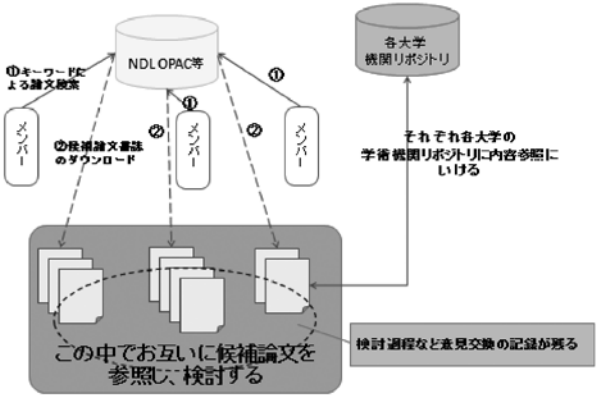
## 6　WS/GS 博士論文 DB 支援の方法として考えたこと

この WS/GS 博士論文 DB の作成に関わった研究会メンバーは、１つの機関に所属しているのではなく、それぞれ別の機関に所属しているため、作業はインターネット上で行えることが便利であろうと予想したことに始まる。上述の目標を実現するために、次の方法を考えた。

⑴今後のデータ更新作業のツールとして、NWEC 情報課が契約したプロクエスト社の RefWorks を使う。

⑵今後 DB のデータ更新をしていく際の作業を効率化するために、研究会メンバー各自の手作業による書誌情報の検索・ダウンロードではなく、WS/GS 博士論文 DB を開発した外部業者と連携して、NII-DBR から RefWorks へ書誌データをインポートする仕組みを作り、作業の効率化を図る。つまり、図３の「①キーワードによる論文検索」と「②候補論文書誌のダウンロード」が、各メンバーによる手作業ではなく、年１回程度のプログラムによる定期的な作業にすることを考えた。

図 3




(3)博士論文を WS/GS 博士論文 DB に登録する採否を判断する特定の研究者メンバーが、その論文選考の作業をするために、ダウンロードした書誌データ等を共有する仕組みとして、RefWorks の RefShare 機能を提供する。この RefWorks を使うことで、候補となった論文の文献情報をネットワーク上で研究者メンバーは共有することができる。

また、論文選考過程の履歴として、作業段階で発生する様々な研究のコメントを保存し、同時にバックアップとして使えるように整理することも実現できるものと考える。

(4)現在の WS/GS 博士論文 DB に登録されている書誌データは、各大学学術機関リポジトリにリンクしているものもあり、これは検索結果から直接論文を読めるため、とても便利な機能である。ただ、まだ大学の学術機関リポジトリに論文が搭載されておらず、OPAC にリンクしているのみの書誌がある。これらの書誌について、定期的に各リポジトリに搭載されていないか、自動的に調べ、リンクを張り替える機能の実現はできないだろうかと考えていた。

現時点では、この機能の実現はできていないが、平成 25 年 3 月 11 日に、

学位規則の一部を改正する省令（平成 25 年文部科学省令第 5 号）が公布され、平成 25 年 4 月 1 日から施行されることとなった。通知文には次のようにある。

今回の改正は、教育研究成果の電子化及びオープンアクセス化の推進の観点から博士の学位を授与された者は当該博士の学位の授与にかかわる論文をインターネットの利用により公表するものとする。

このことから、博士論文は各大学の学術機関リポジトリ等での公開が基本となるため、⑷の機能強化は必須のものと考えられないだろうか。

⑸または、博士論文を執筆する研究者へ、執筆した論文を個人リポジトリとして世界に発信する機能をオプションとして提供できないだろうか。

⑹東日本大震災のような災害を考えた時、RefWorks のような既存のサービスを使うだけで、国外にこの WS/GS 博士論文 DB のコピーをおくる条件が提供できることが良い。

## 7　おわりに

検討段階、調整段階のままで記事を書くことになってしまったが、インターネット公開される博士学位論文の注目度等を考えても、この試みは悪くないと思う。NWEC 情報課は小さな組織で、図書・情報を専門とする職員がいるからこそ、外部の大学研究員、企業等との連携も専門的でコンパクトにできる可能性が高い。

今後、RefWorks を使うメンバーへのデータベース講習会の開催、ネットワーク担当者との調整、NDL-OPAC 等、外部データベースからのデータ取り込みの開発や、大学図書館との学術リテラシー教育の共同事業の可能性も含めて、NWEC と大学図書館界、学術情報流通業界とのさらなる連携の広がりに期待したい。

注

⑴ NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム、National Diet Library Online Public Access Catalog）

⑵ JAIRO（Japanese Institutional Repositories Online、日本の学術機関リポジトリに蓄積された学術情報 [ 学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等 ] を横断的に検索するシステム）

⑶ CiNii（NII 論文情報ナビゲータ [ サイニィ ]、論文や図書・雑誌などを検索できるデータベース・サービス）

謝辞

この WS/GS 博士論文 DB を作成し、NWEC 情報課に紹介くださった、お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター特別研究員内藤和美先生、国立女性教育会館情報課客員研究員青木玲子さん他、研究会の皆様のご尽力に敬意を表します。

また、WS/GS 博士論文 DB を作成時期から、この試みに情報共有をしてくださった朝日印刷工業（株）デジタルメディア開発部　上原充裕様、様々なアドバイスを提供してくださった株式会社サンメディア e-Port 東京オフィス　長谷川智史様、ProQuest（プロクエスト日本支社）セールス・スペシャリスト , RefWorks-COS 担当 川畑篤之様に感謝します。

（いちむら・さくらこ　東京大学附属図書館柏地区図書課長）